

## 親すて山

むかしは、人はだれでも七十歳さいになると、山にすてられたそうです。

ある男の人が、父親が七十歳になつたので山にすてようと、父親を背負子しょいこでかついで山に入つていきました。幼おさない息子もついていきました。

山の奥おくまで来ると、男の人は、たくさんの食べ物おを置いて、父親をすてて帰ろうとしました。すると、息子が、背負子をひろつて持つてかえろうとします。男の人が、「そんなもの、持つてかえるんじゃない」というと、息子は、「だつて、おとうさん。お父さんが年をとつたとき、この背負子でお父さんをかついですてにこなきやならないもの」といいました。

男の人はおそろしくなり、父親をすてるのはやめてつれて帰りました。  
それからというもの、年寄りをすることはなくなつたそうです。

原話 『朝鮮民譚集』 孫晋泰

再話 〔 村上郁 〕